

熊本地震と医療・教育現場の被災状況

平成二十八年熊本地震について



阿蘇郡市医師会長

平田 智美

平成二十八年四月に発生した熊本地震において阿蘇郡市では南阿蘇村の立野・河陽地区を中心に大きな被害が発生し、同地区では七名の方々がお亡くなりになりました。

私が住む高森町では特に大きな家屋倒壊などは発生せず、私の診療所では暖房用のボイラーが地震の揺れで数十センチ移動し配管の損傷が発生しましたが、建造物には少々の亀裂を生じた程度でした。

停電も発生しましたが、診療所の隣にある高森町交流センターが一時避難所に指定されたことで早期に非常発電車が配置されたことで、比較的早期に復旧しました。断水に対しては給水を行って頂いた自衛隊員の協力により、何とか必要量を確保することが可能でした。

阿蘇郡市医師会の会員の被災状況ですが、立野地区にあった阿蘇立野

病院は国道五七号線の崩落や病院裏手の土砂崩れなどで現在も診療の再開には至らず、現在は仮設の診療所を立ち上げ地域住民の方々の診療に当たっております。その他の会員の先生方の施設は特に大きな被害はなく、震災後すみやかに診療を開始されており、震災後数日ではほぼ常どおりの診療体制となりました。

震災直後はDMAT、JMAT等の協力を仰ぎ、南阿蘇村に開設された避難所での健康管理等行って頂いたことで、特に大きな健康被害の発生を防止できたのではと考えます。救援チームのスタッフの皆様には大変感謝しております。

現在、阿蘇地区が直面する最も大きな問題は、交通インフラの回復にあると考えます。

国土交通省により、南阿蘇からはグリーンロード、北阿蘇からはミル

クロードによる熊本方面への迂回路は開通していますが、両路線とも標高一〇〇〇m程度の高地を通るルートのために、冬期は積雪・路面凍結による通行止めとなる可能性が高い道路です。現在でも渋滞が発生しやすく、重傷者を熊本市内の基幹医療機関に搬送する際には以前の一・五倍程度の時間を要している状態です。出来るだけ早期の五七号線や依山バイパスの復旧が望まれるところです。

また、JRも阿蘇〜肥後大津間、南阿蘇鉄道の中松〜長陽間の復旧にはかなりの時間を要すると思われる、バスによる代替運行が行われていますが、公共交通機関を利用した熊本方面へのアクセスは非常に困難な状況が続いています。

今回の地震は地方においては道路・鉄道等の交通インフラが普段の生活にとって非常に重要なものであると痛感させられたものとなりました。

関係機関の早急な復旧対応に大きく期待しています。

